

## 「2018年台湾大学スプリングスクール参加報告書」

医学研究科社会健康医学系専攻1年 宮澤 仁

## 1 学習成果

私は今回中国語を現地で学び実践することで、コミュニケーションが「できる面白さ」と「できないもどかしさ」の両方を再認識した。今まで英語での認識はあったが、中国語でも体験することで自分自身の視野の広がりを感じた。中国語レベルの向上を目指して帰国後も学習を進めたい。同時に様々な人とのやりとりを英語で行い、台湾大学の学生がほぼ全員英語を利用できる現実を知った経験から、英語の重要性も再認識した。英語の向上も日々進めなければならないと意識した。

また台湾に対する見方を深めた。今までにも見聞きしていたが、今回様々な視点から学ぶ中で、台湾の特殊性や現地の考え方などを再認識した。今後も台湾及び国際情勢に関心を持っていきたい。

## 2 海外での経験

様々な場面での交流が良い経験だった。受入先スタッフやスチューデント・アドバイザーの手厚い支援を受け彼らと親交も深めた。他にも本プログラムの参加学生や現地学生と交流して様々な情報交換を行った。私の専門分野である公衆衛生学の学生とも交流でき、研究や進路について話すことができた。さらに現在台湾企業の東京事務所に勤務している中学時代の友人と出張中の台北で再会を果たしたり、別の英国人の知人もちょうど台北に滞在中で昼食をともにしたり、さらには台湾人の友人ともなぜか台湾の健康保険システムについて話を聞いたり、大学内外で様々な人と情報交流する機会に恵まれたことがまた有意義だった。

## 3 プログラム内容

中国語クラスと台湾文化理解に関する講義やフィールドトリップが行われた。クラスはレベル別に配属され、私は英語での中国語指導クラスに入った。授業は毎週平日の午前中に行われ、最終日は中国語によるプレゼンテーションを行った。当初は先生の中国語を聞き取ることもままならなかったが、決まったフレーズを少しずつ理解して中国語を話す手ごたえを得た。台湾文化理解の講義は以下のテーマ（民俗信仰と風習、伝統舞台、自然と環境問題）で行われた。全て台湾大学の教授陣によるもので貴重な機会だった。フィールドトリップでは台北市内各所および近郊の歴史地区に赴き、英語による案内を受けながら台湾独自の歴史や各地の文化を学んだ。

## 4 進路への影響について

今回のプログラムを通じてより幅広い視点の必要性について影響を受けた。具体的には、専門分野にとどまらない「領域」や海外などの「場所」について広い視野を持つことである。私は社会人経験者で新卒生とは異なる意味で予断を許さず、以前から進路の確固たる見通しを持っていなかった。今回様々な人や場所・考え方等の違いに触れ、私のような立場だからこそ視野を広く持つ意味を再認識できたと考えている。今後のより良い進路選択に活かしていきたい。